

一以貫之

平成30年度 敦賀気比高等学校 第1学年
学年通信 第2号 平成30年5月9日(火)

(いちいかんし) 「一を以て之を貫く」とも読みます。
孔子の『論語』にある言葉で「一つの思いを 曲げずに貫き通す」という意味です。
自分がこれと思ったことは、諦めずに最後まで頑張り通しましょう!

意識を高く

みなさん、ゴールデンウィークはエンジョイできましたか。
ところで、皆さんは今年の学年目標を憶えていますか。
忘れてる人もいるかも知れませんが、念のために書いておくことにします。

個性伸長と自主・自発性の育成

この目標は、高校卒業を見すえて立てられたものであり、卒業後の進路を明確にするには、「自分らしさ」の発見すること、自らの長所を伸ばすことが重要だと考えるからです。
さらに、自主的かつ自発的に課題を発見し、発見した課題を解決していく力や、そのために自己を表現する力は、これからの社会を生きる上で最も重要な能力であり、こうした力を今この時期から意識して育ててほしいと願っています。

この手始めとして、春休みには「未来予想図」を書くという宿題が出されたわけです。
そして、この2年生の間に、どのような進路に進むかを、皆さん一人一人が心に描けるようになることを目指しています。

さて、来週の火曜日から中間考査が始まります。
進路を決め、それを現実のものとするには、学業成績の善し悪しが大きなウェイトを占めます。

そこで、今さらかも知れませんが、定期考査に向けた心構えを確認したいと思います。

- ①不正行為はしない
カンニングは重大な不正行為で、規定により厳しく罰せられます。
携帯電話等の所持もカンニングと見なされます。
携帯電話等は、必ず電源を切ってカバンの中に入れておきましょう。
- ②体調を管理する
試験中に体調を崩してしまえば、本来の力が発揮できません。
試験前日は特にしっかり休息をとり、万全の体調で試験に臨みましょう。
- ③時間いっぱい取り組む
試験時間が余ったときは、しっかり見直しをしましょう。
また、空白はできるだけ埋めるよう努力しましょう。

進路を決める1年最初の定期考査です。皆さんの意気込みを見せて下さい。

5月の行事予定

1日(火)	春季遠足研修
7日(月)	スポーツテスト(5~7限)
8日(火)	中間考査時間割発表
11日(金)	QU検査(6限)
12日(土)	考査前学習会(今年度から始まった取り組みです)
15日(火)	中間考査1日目
16日(水)	中間考査2日目
17日(木)	中間考査3日目
18日(金)	中間考査4日目、NIE講座(保健委員)
19日(土)	参観授業(1限)、父母師会総会、学級懇談会
22日(火)	短縮授業、春季総体壮行式
23日(水)	避難訓練(6限)



連絡

中間考査の時間割です。計画的に試験対策をしてください。



校時	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組
15日 (火)	1	古典	古典	教II	教II	教II	通常授業 (3限)
	2	英表	英表	英表	英表	英表	
	3						
16日 (水)	1	政経・現社	政経・現社	コミュ英	コミュ英	コミュ英	教II
	2	物・生・英演	物・生・英演	政経・現社	政経・現社	政経・現社	現代社会
	3	教B	教B	中LL	中LL	中LL	経・工・一般
17日 (木)	1	世・日・地	世・日・地	現代文	現代文	現代文	コミュ英
	2	化学・文系理科	化学・文系理科	日・中会・自習	日・中会・自習	日・中会・自習	現代文
	3	教II・III	教II・III				現代文
18日 (金)	1	コミュ英	コミュ英	生物基礎	生物基礎	生物基礎	生物基礎
	2	現代文	現代文	古典	古典	古典	福祉

NIE講習会(保健委員会)

進路を考えよう

第1回 「学修」してますか



今年の学年通信では、学年目標を達成するために、キャリアエディケーションの時間と連動した記事を掲載していきたいと計画しています。

第1回のテーマは「学修」についてです。

漢字が間違っていると思った人もいるとは思いますが、これで正しいのです。
これまでは「学習」、つまり「何を学び、何を習ったか」ということが大事でしたが、これからは「学習するだけでは不十分である」という考え方になるのです。

これは、ある大学での話ですが、ある講座を担当した教授が、講座を受講した学生に対して行った試験結果を見て、結果が良くなかった学生に赤点をつけて単位を認めなかったそうです。

すると、単位を認められなかった学生が教授の所に来て(親と乗り込まなかった分、立派だと思ったそうですが)、「私が講義を聞いて作ったノートを見てほしい。結果は良くなかったかも知れないが、こうした私の努力も評価してほしい。」と訴えたそうです。

この話を聞くと、皆さんも「その通りだ」と単位を認められなかった学生に同情するのではないかと思います。これが「学習」と「学修」の違いなのです。

「学修」という言葉が示す「何を学び、何をおさめたか」という意味は何かというと、「何を学び、何ができるようになったか」であり、このケースでは受講した学生に課した試験で一定以上の成績を修めることが、単位認定の条件なのです。

これは、大学だけの話ではありません。
社会で求められる資格を取得するケースと全く同じなのです。

資格(例えば、自動車の運転免許)を取るための講習を真面目に受講したとしても、資格試験(自動車の運転免許なら、公安委員会の試験)に合格しなければ、資格は与えられません。

そこで皆さんに提案があります。

間もなく中間考査が始まりますが、未来への第1歩として、これまでがそうであったように「先生に言われたことはやったから」と安心するのではなく、「学修」という視点に立った努力、つまり、全部はできなくても、「これなら応用されてもできる」という自信を持てるような分野をつくることにチャレンジしてみませんか。

